

「恵みによる教会生活」

(ローマ12・3〜8)

一、与えられた恵みによって

パウロは「自分は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います」と語りました(3節)。どういふ思いで語ったのでしょうか。適当な聖句があります。一「コリント15章10節です。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に對するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのです。が。」この「私の働きは私ではないのです。神の恵みなのです」との思いを持って語っているのが、自分は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います」です。

それが分かりますと、3節2文目以降の意味も見えてまいります。《思つべき限度を超えて思い上がってはいけません。》人にはそれぞれに生まれ持った才能、また運不運があります。こうしてある人に、人よりも優れた何かがあり、順調に滑り出したとします。そうしますと、その人には「私が・・・」「私が・・・」という思いがもたげてくるものです。うまく行けば行くほど「私が・・・」とい

う思いも膨らんでいきます。主のご意思は、《思つべき限度を超えて思い上がってはいけ(ない)》です。私共信仰者は、《思つべき限度を超えて思い上がってはいけません》と自分に言い聞かせることが必要です。罪赦された罪人だからです。

3節3文目を見てまいります。《むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。》とあります。《信仰の量り》って、何なのでしょう。キリストが私の罪のために十字架で死んでくださった、今生かされているのは神の恵みによると知って、物事を見ることです。

二、恵みによって生きる

恵みによって生きると、どうなるのでしょうか。4節、5節です。《一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとりは互いに器官なのです。》とあります。パウロは、生まれつきのイスラエル人と、生まれつきのイスラエル人でない者を念頭に置いて《一つのからだ》と語っています。生まれつきのイスラエル人は、頑なになってしまいました。それは、《異邦人の満ちる時が来るまで》のことであり、《こうして、イスラエルはみな救われるのです》と11章で語り

れています。《大勢いる私たち》とは、生まれつきのイスラエル人と、生まれつきのイスラエル人でない者も含めての《大勢いる私たち》です。生まれつきのイスラエル人は、残念ながらキリストを信じない者がほとんどですが、彼らを《一つのからだ》から除外する意思は、神にはありません。今は異邦人の時ですから、異邦人キリスト者が多いだけの話です。

三、恵みにしたがって

神は、ユダヤ人と異邦人から成る教会に、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を分け与えられました。6節です。《私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に依じて預言し、》とあります。教会には預言の働きをする者が置かれています。今日では、説教者がこれに当たります。

続いて7節です。《奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、》とあります。パウロがここで語った《奉仕》は、前後関係から見ると、「預言の働きをする人」と《教える人》に挟まれており、さらには8節に《勧めをする人》が出てくるので、《奉仕》は、特別な奉仕であると推測できます。11コリント3章8節に《御霊に仕える務めは、もっと栄光を帯びたものとならないでしょうか。》とありますが、《務め》と《奉仕》は同

じことばです。したがって《奉仕》は、神の恵みによらなければできない、特別な務めであったと推察できます。使徒職のことかも知れません。また、7節後半の《教える人であれば教え》は、教師の働きです。教師とは、教えることが上手な人が教師なのではありません。教えることの中身が問われます。教師は非常に責任のある務めです(ヤコブ3・1)。

8節です。《勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行つ人は喜んでそれを行いなさい。》と語られています。《勧めをする人》は、「助ける者」「勧める者」「励ます者」「慰める者」の意味があります。フランシスコ会訳は「励ます人」と訳出し、「慰める者」と訳している注解書があります。《分け与える人》は、分け与えることに喜びを感じる人です。それは賜物です。

《指導する人》は、「(前に立って)指導する」「助ける」「援助する」の意味です。みんなの心がキリストに向かうようにお世話するという意味で捉えたら、大きくまちがえることはないと思われまします。最後は《慈善を行つ人》です。元のことば(「エレオー」)は、「憐れむ」「同情する」の意味です。「憐れみの心を持つ人は憐れみなさい」、あるいは「同情する心を持つ人は同情しなさい」と受け止めたら良いと思います。